

## Ⅱ 研究の内容

## 1 みつば幼稚園

### 研究主題

「学校運営協議会『みつばの森』設立10周年を迎えて  
～保育との関連を問い直し、園児の育ちに生きる連携を探る～」

#### (1) 研究主題設定の理由

##### ①地域の実態及び「みつばの森」設立の経緯

本園は、京都御苑の西に位置し、西陣織で有名な西陣地域に接する地域にある。周辺は、京都の伝統文化が集約した昔ながらの落ち着いた雰囲気と、多くの新しいマンションが立ち並ぶ近代的な雰囲気が混在する地域である。

平成7年4月に、小川・中立・桃菌幼稚園の3園が統合され、小川小学校・幼稚園跡地に開園した幼稚園である。小川幼稚園は明治24年設立、中立幼稚園は昭和7年設立、桃菌幼稚園は昭和9年設立と、それぞれが地域に愛された歴史ある幼稚園であったが、子供の減少等により、PTAや地域の方々が、「幼稚園・小学校の子供たちのために統合を！」と決断され、その熱い思いがあり、本園は設立されている。

統合により、元小学校区は7学区にまたがる地域となっているが、どの地域も、平成19年に制定された「京都はぐくみ憲章」の中にある「子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます」という内容の先駆けとなるような取組がしっかりと根付いた地域であった。そこで、幼稚園は地域の消防団や少年補導等の各種団体と共催で行事を行い、積極的に参加する等の取組を続け、子供の参加が難しいところは、教職員や保護者が参加する等の工夫を行い、地域の方々にも温かく受け入れられてきた。また、ほとんどの子供が核家族で育ち、保護者自体も地域とあまり接点のない実態の中であって、幼稚園と地域との共催行事は、地域の方々と幼稚園、保護者を結ぶ役割を果たしてきている。

そして、平成18年2月には、幼稚園としては全国で2番目となる学校運営協議会「みつばの森」が設立された。当時の設置の趣旨・目的には、「少子高齢化社会や情報があふれている中で、子育てに戸惑う保護者が多くなってきている。また、価値観の多様化とともに、自信がもてなかつたり、不安や重荷に感じたりしている保護者も多い。生きる力の基盤や豊かな感性を育む幼児期に、地域の中で幼稚園が核となって、園児・保護者・地域・教職員がともに育ちあう幼稚園づくりを目指していきたいと考えている。人と人とのかかわりが希薄になってきている中で、子供も大人もより多くの人々と実体験を通してかかわることで豊かな心情や感性が培われると考えられる。園児・保護者・地域・教職員がともに双方向に互いのよさや知恵を学びあい、育ち合えることを期待し

ている。」と書かれており、孤立化し不安を増大させている保護者に寄り添い、地域も巻き込んで、みんなで育ち合っていこうとする大きな視点に立った当時の熱意が感じられる。

## ②現在の子供及び保護者の実態

現在、子供たちの実態は、家庭で大事に育てられ大変素直であるが、限定した大人とのかかわりの中で育ち、入園前に同年齢や異年齢でのかかわりが少なく、大人の様子や顔色をうかがって行動する傾向がある。また、家庭内での遊びが多く、運動面の発達が緩やかで、また知的な面と運動面の発達の実態がアンバランスとを感じる面もある。

保護者の実態としては、預かり保育（18時までの預かり保育）の本格実施に伴い、PTA活動の見直しや保護者同士の人間関係構築の方法を探ること等の過渡期にあり、保護者の様々な価値観をそれぞれが認め共存するための取組の最中である。また、幼稚園と地域とのかかわりの深さに、地域の中で育てる安心感をもっているものの、学校運営協議会の取組については認識が低い傾向が見られている。

## ③研究主題に向けて

学校運営協議会は、設立当初より参加してくださっている方々や卒園児の保護者等で構成されている。そのため、地域の各種団体や小学校、中学校の学校運営協議会やPTAともかかわりが深く、幼稚園との橋渡し役を設立以来担ってくださっている。

しかしながら、みつば幼稚園学校運営協議会設立から10年目の節目を迎えた現在、子供の実態、保護者の実態、幼稚園の実態は、前述のように様々に変容している。そして、その取組を振り返った時、学校運営協議会の取組や地域とのかかわり等が「あって当たり前」のものにはなっていないだろうか。その取組は現在の園児・保護者・地域・教職員の育ち合いにふさわしいものになっているだろうか。現在の園児たちの育ちのために、今一度、保育との関連を問い直し、園児の育ちに生きる連携について探り、どのように取り組んでいくべきか、改めて検証しようとする。

学校運営協議会各企画推進委員会の取組を核とした「地域とのつながりの中での子供の育ち」に視点をあて、これまでの取組を検証し、更に学校運営協議会の取組を保護者や地域へ発信し、保護者の意識の向上と教職員の参画につなげていきたい考える。そこで、①子供の育ちへの問い直し ②学校運営協議会の取組の「見える化」と保護者の意識の向上 ③教職員の参画 について検証していく。

## (2) 学校運営協議会の取組

### ① 設立の経過

平成18年2月19日にみつば幼稚園学校運営協議会設置指定書交付式が行われ、みつば幼稚園学校運営協議会「みつばの森」(公募によりのちに命名)が設置される。

学識経験者と地域代表、保護者代表、幼稚園代表からなる理事会と3部会からなる企画推進委員会の代表からなる協議会を構成した。

部会は、「絵本大好き」; 絵本メディア企画推進委員会

・・・絵本ボランティア、PCホームページ作成

「地域とともに育ちあう」; 地域環境企画推進委員会

・・・地域行事連携

「伝統文化に触れよう」; 文化企画推進委員会

・・・(伝統・文化に関する) ゲストティーチャー

であった。

平成20年には、「地域環境企画推進委員会」を、「ふれあい♥つながり企画推進委員会」と改称し、「地域の子どもは地域で育てる」という本市教育理念のもと、同じ地域にあり幼小連携を進めている京都市立新町小学校の学校運営協議会との連携事業及び預かり保育充実等の内容を発展・充実させるための、取組を進めてきた。また、文化企画推進委員会を伝統文化企画推進委員会とし、更に地域の方々のお力をお借りし、「伝統文化」に特化した取組を進めてきた。



②平成28年度 みつば幼稚園の教育目標及びみつばの森組織図

# 京都市立みつば幼稚園

教育目標

幼児期にふさわしい生活を通して、豊かな心やたくましく生きる力の基盤を培う

## みつばの森・みつば幼稚園学校運営協議会

子ども・保護者・地域・教職員ともに育ちあう幼稚園づくりを目指して

協議会委員 (理事会)				
会 長	吉田 厚子			
副 会 長	越智 香	(園 長 田中 順子)		
学識経験者	橋本 憲尚	島田 尚夫	伊原安見子	
保護者代表	多原 千恵			
地域代表	近藤 則子	北井 晶子	難波三友紀	岡本早映子 鳥田 潤
幼稚園代表	奈良 美保子			



絵本大好き

絵本・メディア 企画推進委員会 絵本ボランティア
(地域代表) 6名と グレースライオンズクラブの 皆さん
(保護者代表) PTAアート班中心に3名
(幼稚園教職員) 3名



地域とともに育ちあう

ふれあい♥つながり 企画推進委員会 新町小学校学校運営協議会との 連携事業・預かり保育充実 など
(地域代表) 16名
(保護者代表) PTA農園食育班中心に5名
(幼稚園教職員) 2名



伝統文化に触れよう

伝統文化 企画推進委員会 夕涼み会・茶道・昔遊び もちつきなど
(地域代表) 7名
(保護者代表) PTAイベント班中心に5名
(幼稚園教職員) 5名





### ③推進委員会の取組内容

#### ◆絵本・メディア企画推進委員会

- 在園児への読み聞かせ（月・火・木・金曜日の12:00～13:45）
- 子育て支援で来園した未就園児を対象に読み聞かせ
- 絵本室の整備（絵本管理システムの導入支援・維持管理、絵本の補修等）
- 催し時の読み聞かせ等
  - （夕涼み会で絵本をスクリーンに映し読み聞かせを行うなど）
- 預かり保育での読み聞かせ

みつば幼稚園・みつばの森（みつば幼稚園 学校運営協議会）

## えほんボランティア 大募集!!

絵本ボランティアは月・火・木・金曜に  
絵本室の整理をしたり、本を読んであげています。  
幼稚園でほっこりタイム、みなさんいかがですか？

**Q.絵本ボランティアって？**  
A.絵本室で子ども達に本を読んであげます。「読み聞かせ」とは異なります。  
「この本読んで〜」と言ってきたら読んであげます。  
また、返却本を棚に戻したり、季節のお題本を並べたりします。  
子ども達が絵本室で安全に通わせるよう、見守っています。

**Q.時間は？いつ来たらいいの？**  
A.時間は12:00頃～1:45頃（火曜のみ10:00～11:30の午後もあります）  
ご都合により遅れたり、早く上がりすることもOK！都合が悪ければ休んでもかまいません。  
現在は曜日に入れる日（月・火・木・金）で決めています。欠れる日ならいつ来ても構いません。  
「〇曜日は、予定がないのでやってみようかな？」という方、いかがですか？

**Q.一人でやるの？**  
A.一人でも、お友達と誰か合ってもOK！  
同じ曜日に数名で登録して、子ども達がいなくても「ちょこっとおしゃべり」も楽しいです。  
子どもが読書すると、ママ友トークもあまり出来ませんからネ！☆（絵本室での相談は、お電話でも可です）

**Q.誰がやっても良いの？**  
A.在園児のお母さん、ご遠慮いただいております。  
卒園児のお母さん、また、地域の方々も大募集中です。

**Q.ボランティアをして良かったことは？**  
A.たくさん絵本をゆくり読める、・子供との時間に浸って返還る。  
・パワーを分けてもらって元気になる、・我が子に読ませたい絵本をチェックできる。  
・子ども達の姿を見て「自分の子にもこんな時間があったな〜」と嬉しく思える。  
・人の役に立つ喜び、などなど。

絵本ボランティアに興味のある方は、職員室までお申し付け下さい。

ボランティア日記・みつばの森

今日は紙芝居が人気だったのね

こんにちは〜

絵本ボランティア  
ある日の

来週は字ばかりか。絵本で字が出て来る本あったかな〜？

カレンダーにボランティアに入れる日を書き込みます

面白いエプロンはボランティアの目印☆

返却本を戻そう。

お弁当も買っちゃったよ〜

今日は子ども達、遅いなあ〜。そういえば、小学校の図書、今どんな感じ〜？

子ども達も喜んで読んで〜

これも読んで

楽しそうな本ね

新町小

新町はプリントが。

子ども達と一緒に過ごして楽しませんか？

ボランティア日記

今日も、紙芝居が人気で〜

本は元の場所へ

職員室へ帰る前に、失礼します

みんなー！借りの手紙だっって〜

ありがとうございます。ご返事した職員

絵本ボランティアは、みつばの森（みつば幼稚園学校運営協議会）の活動の一環です。

（絵本メディア企画推進委員会作成）

絵本ボランティアさんの連絡ノートより

5月9日（月）今日は朝から雨だったので、たくさんの子供たちが来てくれました。ゆり組さんはお弁当を食べるのが早いので一番乗りで来てくれました。100かいだてシリーズがお気に入りのようです。ばら組さんが遅れて来てくれましたが、やっぱり100かいだての絵本を探していたので人気シリーズです。

12月15日（木）もも組さんが絵本を借りにキャーキャーとにぎやかにやってきました。かわいいなあ。

12月13日（火）「読んで！読んで！」とお膝の取り合いになる場面も・・・。「久々の感覚でした」

◆ふれあい♥つながり企画推進委員会

- 新町小学校学校運営協議会との連携事業  
西賀茂農園での活動、お年寄りとの交流  
幼小連携（ポップコーンパーティー）等
- 預かり保育の充実  
預かり保育時における「ミニ運動会」や  
「しおりづくり」等の実施



◆伝統文化企画推進委員会

- 夕涼み会において、昔遊び担当  
夕涼み会・・・夏休みの午後に開催。今年度は、年長児の宿泊保育と合同で開催する。
- 茶道体験
- もちつき 等



茶道体験



夕涼み会・昔遊び



もちつき

④ 平成28年度みつば幼稚園学校運営協議会事業計画

月 日	内 容	担 当
5月31日	第1回学校運営協議会	理事
6月12日	日曜参観参加 学校運営協議会について紹介	理事
7月22日	夕涼み会・宿泊保育	理事、伝統文化企画推進委員会 絵本・メディア企画推進委員会、ふれあい♥つながり企画推進委員会 (新町小学校学校運営協議会人権福祉企画推進委員会)
8月 6日	中立ふれあい広場 (中立住民福祉協議会主催)	伝統文化企画推進委員会
8月27日	小川盆踊り大会 (小川住民福祉協議会主催) 特別養護老人ホームと交流	理事 ふれあい♥つながり企画推進委員会
9月27日	ミニ運動会	ふれあい♥つながり企画推進委員会
9月27日	第2回学校運営協議会	理事
10月 8日	運動会	理事
11月18日	ポップコーンパーティー (幼小連携)	ふれあい♥つながり企画推進委員会 (新町小学校学校運営協議会人権福祉推進委員会)
11月20日	小川ふれあい広場 (小川住民福祉協議会主催)	理事
12月 7日	もちつき	理事、伝統文化企画推進委員会(新町小学校学校運営協議会人権福祉推進委員会) 小川・中立学区少年補導委員会
1月23日	お茶会	伝統文化企画推進委員会
2月 3日	給食交流	理事
2月 7日	預かり保育お楽しみ会	ふれあい♥つながり企画推進委員会
3月 9日	第3回学校運営協議会	理事

その他 \*絵本・メディア推進委員会の絵本ボランティアによる絵本室整備と園児への絵本の読み聞かせ(毎週月・火・木・金)

\*特別養護老人ホームのお年寄りと年中・年長児の交流の補助(毎月2回)

\*園内研究テーマ「体を思い切り動かす楽しさを味わうための教師の援助や環境構成を考える」につながる、もの・ひとの援助



### (3) 研究の内容

#### ①園児の育ちへの問い直し

ア 絵本大好き 絵本・メディア企画推進委員会

＝絵本室の状況＝

本園の絵本室は2階にあるが、保育室はすべて1階にあるため、園児だけでは自由に利用しにくい立地にある。しかし、絵本ボランティアさんが、決まった時間に必ずいてくださることで、安心して絵本室を開放することができている。

また、保育者だけでは行き届きにくい絵本の管理についても積極的に取り組んでいただき、いつでも「きれいで使いやすい」状態が保たれている。

本園は、幼稚園の中では珍しく、バーコードによる絵本管理システムを導入しており、その維持管理にも貢献いただいている。

また、PTAから企画推進委員会に所属している「アート班」の保護者が「おすすめ絵本」等を紹介する壁面構成を定期的に変るなど、絵本室の雰囲気を楽しいものにしてくださっている。

しかし、そのような恵まれた援助がありながら、絵本室の活用があまりできていない状況があった。絵本の貸し出しは親子で行うことが基本であったため、絵本を借りる園児と借りない園児に差が生じており、絵本ボランティアさんの存在もあまり浸透していない状況であった。

そこで、昨年度からは、絵本への興味をみんなにもってほしいという願いから、保育中に担任と絵本を借りる時間を設けた。1クラス35名いる中で、一人一人の貸し出しカードを手書きすることは不可能であり、システム管理であることがとても効果を発揮している。

また、絵本ボランティアさんが来られた時には、絵本室の利用状況がよくなることを願って、担任や園児たちに知らせるよう心掛けた。



\* 絵本ボランティアさんとのかかわりの中で

(以下、事例内の園児の名前は仮名です。)

「また読んでな」 5月10日 4歳児

昼食後「今日は“絵本さん”が来てくれてはるよ！」と声をかけると、「やったー！」と言って、2階の絵本室に上がっていく4歳児のヒロユキ。

大人とのかかわりを大変欲し、保育中、担任にも「これはなんで？なんで？」「ヒロユキはこれがいいけど先生は？」等、密なかかわりをもつことで安定していた。3歳児の時は、よく職員室にやってきて、教職員とのかかわりを求めているが、進級後は、そのような姿は少なくなっていた。

この日も、一人で絵本室に行き、ボランティアさんに何冊も何冊も絵本を読

んでもらっている。要求通りにゆったりと読み聞かせをしてくれるボランティアさんの横で、真剣な顔をして絵本に見入っている。

次の本を読んでもらおうとした時に、「片づけ！」と降園準備であることを知らせに同じクラスの園児たちが伝えに来た。すると、ヒロユキは、さっとボランティアさんに「もう帰る時間やて。また読んでな。」と言って、絵本を元の場所に片づけて保育室に戻っていった。

その後、ヒロユキが、よく絵本を読んでもらいにやってくることをボランティアさんが伝えてくれる。

#### 〈考察〉

3歳児の時は35名が2クラスに分かれていたが、4歳児になり1クラスになった。そんな中、ヒロユキは、登園を渋る等の様子も見られず、職員室にもあまり来なくなり、スムーズに進級したように見られていた。

教員も「ヒロユキは、“絵本さん”が来るのを楽しみにしてるなあ」と感じていたが、その様子をしっかりと見るのがなく、この時、初めて絵本ボランティアさんが「この頃よく来る」ということに対して、何か理由があるのかと感じておられると認識した。絵本ボランティアさんの活動に「おまかせ」になっていたこと、保育中の園児の様子と関連付けて考えられるように連絡をしっかりと取っていかなかったことに対し、大変反省をした。大勢入園してきた3歳児の様子を見て、職員室にも自分の居場所を見つけられず、来なくなっていたのではないかということに思いがいたらなかったことも反省した。

降園時間が来て、読んでほしかった絵本を手にしていたヒロユキが、さっと戻っていく姿に、何冊も何冊も自分の要求を聞いてもらい、ゆったり読み聞かせをしてもらった満足感が感じられた。自分の「居場所」で得られた安心感は、友達の中に戻っていく自信にもつながっていくと思われる。

また、“絵本さん”という呼び方については愛着も感じられていたが、もっと個と個のつながりを感じていけるように、「名前と顔写真」を園児が見える場所に掲示した。園児が親しみをもってかかわれるように更に工夫をしていきたい。



『11ぴきのねこ』の好きなサユリちゃん」 9月16日 3歳児

サユリは集団に馴染みにくい傾向があり、1学期後半から保育室で落ち着いて過ごしにくかった。この日の午後、絵本室ならば少し落ち着いて過ごせるのではないかと一緒に絵本室を訪れた。

絵本室に入ると、ボランティアさんが「こんにちは」と声をかけてくださった。サユリが保育室で少し落ち着いて過ごしにくいこと、絵本が好きなことを話すと、ボランティアさんは「あら、サユリちゃんね」とサユリの顔を覗き込みながら言った。「そうです、知っていますか？」と教員が聞くと、「ひよこ組（未就園児のクラス）の時によく本を読みに来ていたよね、『11ぴきのねこ』のシリーズが好きなサユリちゃんよね」と、にっこりと笑ってくださった。「今日は何を読もうか？」とサユリに声をかけると、サユリは机の上に置いてあった本を手に取り、ボランティアさんの隣にぴったりと寄り添った。その後、教員が呼びに来るまで繰り返し絵本を読んでもらった。

〈考察〉

絵本ボランティアさんがサユリのことを知っていて、覚えていてくださったことに教員は驚いたが、このように、入園前から未就園児のクラスにも丁寧にかかわり成長を見守っていただいていることはとてもありがたいと感じた。また、サユリがぴったりと寄り添う様子を見て、継続的にかかわっていただくことにより、園児が安心できる場となっていることが感じられた。

イ 地域とともに育ちあう ふれあい♥つながり企画推進委員会  
＝宿泊保育にて＝

平成27年度3月の学校運営協議会にて、「28年度の宿泊保育（5歳児）は、園内で行いたいけどどのように取り組んだらよいか迷っていることやたくさんのご協力をお願いしたいということ」等を幼稚園側から伝えた。すると、「学校運営協議会主催の夕涼み会と宿泊保育を合体して行おう。地域のみんなも巻き込んで楽しい思い出をつくってあげよう」という、ご意見をいただいた。そして平成28年度は、様々な地域の方々のご協力のもと、園内で5歳児の宿泊保育を行った。

\*宿泊保育における地域の方々のご協力の様子の表（P15）参照

### 「幼稚園のまわりの門掃き」 7月23日 宿泊保育2日目の朝

地域の方々が幼稚園の園庭を使って行われるラジオ体操が始まる前に、「幼稚園のまわりも、いつも地域の人や〇〇さん（管理用務員）にきれいにしてもらってるし、今日はみんなできれいにしよう」と門掃きを行った。

ほうき、ちりとり、ごみ袋を手に、幼稚園の周りの歩道の門掃きを始めると、「ここすごい花びら落ちてる」と上を向くと百日紅の花が咲いていることに気づいたり、いつも園側から見ているグラウンドの門を外から見て「うわー、ここ（幼稚園の園庭と）つながってるわ！」と驚いたりしている。

「たくさんゴミあるな」「風で飛んでしまう」等口々に言いながら、みんなが積極的に掃除をしている。

ラジオ体操に参加する地域の方々が集まり始めると、「ありがとう。気持ちよくなるわ！」「上手に掃いてるね！」等声をかけてもらっている。

ラジオ体操前に雑草を抜く地域の方々を見て、園児たちも一緒に抜き始め、頭を突き合わせた状態で「お泊り保育、楽しかったか？」「寝られたか？」等声をかけてもらい、「楽しかった！！」と嬉しそうに答える姿が見られた。



#### 〈考察〉

京都ならではの慣習である「門（かど）掃き」。自分の家だけでなく隣近所も掃いて地域をきれいにしていこうという精神を、宿泊保育で朝早く幼稚園にいるという状況の中、ぜひ園児たちに伝えたい。また、いつもは誰かがこの大変な作業をしてくださっているということに気付いてほしいと思い、「朝の門掃き」を宿泊保育の計画に盛り込んだ。

園内の掃除については、飼育当番等を積極的に行っている園児たちであり、この「門掃き」の提案も、とても興味をもって受け止め取り組んでいた。日頃保育の中でやっていることが生かされ、自信をもって取り組んだと思われた。

たくさん葉っぱや花びらが散っていることに驚いており、「いつもは掃除してもらっている」ということに気付いてほしいという教員の声かけも、園児たちに届いていると感じられた。

しかし、「門掃き」＝掃除ではなく、いろいろな発見の場でもあり、いつも知り尽くしたと思っている幼稚園に対しても、「朝の早い時間に、園の外側で」等の新鮮な感覚をもって楽しんでいる。

徐々にきれいになっていく様子に気持ち良さを感じている中、地域の方々に優しく感謝の声をかけてもらい、自分たちが役に立っている喜びを感じることもできた。教員が提案したほうきを持っての門掃き以上に、地域の方々がされている雑草抜きを園児たちが自ら進んでやり始めた姿からは、「もっと役に立ちたい」という意欲が芽生えていたと感じられる。

また、家庭から離れて一晩過ごしたという特別な自分たちの経験を、地域の方々が知っていて声をかけてもらうことで、宿泊できた自信を更に大きくしていただいたと感じられた。

宿泊保育の中で、様々な方々に「ありがとう」と感謝を表してきている園児たちだが、今度は自分たちが「ありがとう」と言ってもらえたことで、園児たちの中に生まれた感情を大切に、今後の保育の取組を考えていきたいと思う。

#### 「車いすって大変だな」 7月23日 宿泊保育2日目の朝

7時になり、ラジオ体操を地域の方々と一緒に行う。

ラジオ体操が終了し、本園に隣接する特別養護老人ホームから参加されていた車いすの方が、戻るのを順番待ちされていたので、教員が車いすを押しでもよいか尋ねる。職員の方が快諾してくださったので、近くにいたコウジを誘うと、さっと押しに来た。少しの段差だが、なかなか押せず「これって、大変だな」と小さい声で言う。教員も一緒に押してやっとな段を超え、コウジは「はあ」と、はにかんだような顔でため息をついた。

職員の方に「ありがとう。助かったわ」と言ってもらい、コウジは教員を見て嬉しそうに笑った。





#### 〈考察〉



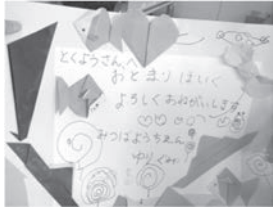



毎月2回、隣接する特別養護老人ホームにて、歌や手遊び、踊り等をお年寄りのみなさんに見ていただいているためか、教員の誘いにコウジはためらいなく車いすを押しに来た。職員の方が車いすを押してられる姿をよく見ていて、もっと簡単なものだと思っていたことも感じられた。いつもは大きな声で話すコウジだが、小さな声で教員に「大変だ」と伝えた。コウジなりのお年寄りに対する気遣いが感じられた。諦めずに段差を上がり、それだけでも達成感を感じている様子だったが、職員の方からの感謝の言葉で、自己有用感を感じたと思われた。

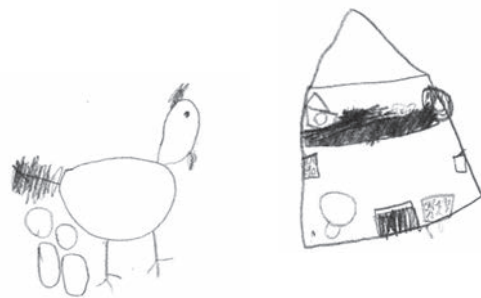




\* 宿泊保育における地域の方々のご協力の様子

時間	園児の活動	学校運営協議会・地域各種団体他のご協力
7月22日		
13:00	◎みつば幼稚園 集合	○ 学校運営協議会理事の方々と顔合わせ
13:10	◎始まりの式	
13:30	◎調理体験（カレーづくり） ◎プールで水遊びをする	○ 学校運営協議会の見守り
14:00	◎地域の方に浴衣を着せてもらう	○ 小川地域女性会・学校運営協議会による浴衣の着付け
15:30	・写真撮影（グループごと）	○ P T Aによる写真撮影
16:00	◎夕涼み会に参加する ・遊びのコーナー 昔遊び、スーパーボールすくい等 ・遊戯室での集会	○ 新町小学校学校運営協議会人権福祉企画推進委員会、学生ボランティア、みつば幼稚園 P T Aの遊びのコーナー、学校運営協議会絵本メディア企画推進委員会による読み聞かせ（スクリーンに絵本を映して）と教職員の歌・手遊び等
		
18:00	◎夕涼み会終了 ◎地域を散策、買物へ行く	○ 学校運営協議会理事・企画推進委員、みつば会（みつば幼稚園後援会）引率 地域のスーパーマーケットの協力
		
	どれにする？ 500円までやで	グループ6人やし6本入ってるやつ（箱）と違ったらあかん！
	・グループで箱アイスを相談して買う	
18:50	◎夕食を食べる アイスを食べる	○ 学校運営協議会理事・企画推進委員、みつば会（みつば幼稚園後援会）の方々と共に会食
19:40	◎花火をする	○ 小川消防分団の花火指導
20:10	◎おふろ	

	(☆「恐竜の母」からの手紙を発見!!) ◎夜の園舎探検 (魔法の石探し)	○ 学校運営協議会の方々と共に探検 “魔法の石”を 理事よりもらう。
20:40	◎就寝準備	
21:00	◎就寝  7月19日特養さんに宿泊 保育をしている時に見守っ ていただけるよう手紙を届 けました。	○ 夜の見回り・・理事・地域・保護者・ 隣接する特別養護老人ホームのみな さん、派出所の方々等
7月23日		
6:00	◎起床・身支度	○ 小川体育振興会や地域のみなさん
6:40	◎門掃き ◎ラジオ体操 ◎水やり等	
7:30	◎朝食	○ 学校運営協議会理事・企画推進委員の 方々と共に会食
8:15	◎“魔法の石”を磨く	
9:15	◎スイカ割をしてスイカを食べる 	
10:15	◎終わりの式 お世話になったみなさんにお礼	○ 学校運営協議会理事・企画推進委員の 方々と共に
10:30	◎解散	



＝特別養護老人ホームのお年寄りとの交流＝

「いつもよりも楽しくて、うれしかった」9月9日 5歳児

毎月2回ほど、訪問をして手遊びや歌、踊りを見ていただいている本園に隣接する特別養護老人ホームのみなさん。1学期の夏休みに入る前には、「♪しりとりおんど」の踊りを見ていただき、「また夏祭りで一緒に踊りましょう」とお誘いをしていた。しかし、夏祭りでは十分一緒に踊った気持ちになりにくく、幼稚園の遊戯室に特別養護老人ホームの利用者や職員の方々をお誘いし、一緒に踊ることにした。いつもは特別養護老人ホームに訪問しているので、普段とは違う雰囲気での触れ合いとなった。少し恥ずかしそうにする園児や、自分から「こんにちは！」と挨拶をしたり、おじいさんおばあさんに握手をしに行ったりする園児もいた。教員も利用者の方々に笑顔で挨拶をし、握手をすると、緊張気味であった園児たちも自分から手を差し伸べ握手し、挨拶をする姿が見られた。

最初に「♪しりとりおんど」を園児たちだけで踊り、次に教員が「おじいさん、おばあさんをお誘いしようか」と声をかけると、それぞれの園児たちが、教員とともに声をかけにいった。リュウジは自ら「一緒に踊りませんか」と、ゆっくりと立たれたおじいさんの手をなでてから優しく握り、声をかけ誘っていた。

踊っている間も、おじいさんおばあさんの顔を見て微笑んだり、手を握ったりしながら踊りを楽しんでいた。おじいさん、おばあさんも、初めは少し遠慮気味にされていたが、次第とリズムに乗って手や足を動かされ、園児たちとともににこやかにされていた。特別養護老人ホームへ戻られるときに一人の利用者の方が「とっても元気ができました。ありがとう」と園児たちと教員に笑顔でお礼を言ってくださった。特別養護老人ホームの皆さんが帰るときに、園児たちはおじいさんおばあさんに声をかけに行ったり、握手をしに行ったりしてあたたかく見送っていた。キョウコは自ら車いすのそばにより、お別れを言ったあと、まるでエスコートするように、自然と車いすの後ろからおばあさんの背中に手をそえて見送っていた。保育室に戻った後、ミキオが「楽しかったー！」とつぶやいていた。そしてリュウジも「いつもより、楽しくてうれしかった」「だって、今日はおじいさんたちが幼稚園に来てくれて、一緒に踊れてうれしかった」と思いを教員に伝え、とても満足そうな表情であった。

特別養護老人ホームの職員さんからいただいた感想

子供たちの元気な声や笑顔は、高齢者の元気の源です。施設職員では引き出せないステキな笑顔を見せてくださいます。毎回子供たちがやってくるのを楽しみに待っていらっしやいます。これからもよろしくお願ひします。



〈考察〉

継続して何度も特別養護老人ホームに行き、歌や手遊びなどを見てもらい、利用者の方から「ありがとう」と言ってもらったり、涙を流して喜んでもらえたりしたことが園児たち自身も嬉しく、喜びを感じていた。自分たちが元気に歌ったり、笑顔を見せたりすることで利用者の方から喜んでもらえる、元気になってもらえるということに園児たちも自己有用感を感じているように思う。新しい歌を覚えると「特養さんに歌を歌ってあげたい」などの声も園児たち自身から聞こえるようになり、相手を喜ばせてあげたいという気持ちが増し、「相手が喜ぶと自分も嬉しい」と言う気持ちが育ってきたのではないかと思う。ミキオの「楽しかったー！」の一言も、みんな笑顔で「ありがとう」と声をかけてくださったから、自然とそのような言葉が出てきたのではないか。

リュウジは毎回特養さんへ訪問に行く際、積極的にかかわりをもとうとする姿がよく見られる。そして、踊りに誘うときにおじいさんの手をつなぎ、優しくおじいさんの手をなでる仕草にリュウジのお年寄りへの優しさが感じられた。そして今回の触れ合いも普段と違う雰囲気であったこともあり、いつも以上にお年寄りと触れ合い、一緒に楽しむことができ、園児たちと特別養護老人ホームのみなさんとの距離がさらに近づいたように思う。また、幼稚園に来てもらい、少人数でかかわったことで、“特養の人”から、“このおじいちゃん”へと相手を感じることもできたとも思われる。

それぞれの園児が、高齢者の方も一緒に踊れる方法を、その場で友達と考え実行する姿が見られた。相手の状況に合わせて対応する柔軟な対応や発想を嬉しく思った。

幼稚園で交流したことにより“帰りを見送る”という経験ができた。その中で見送る際に、自ら車いすのそばにより、手を振ったり、背中をそっと押したりするような行動が自然と見られ、高齢者をいたわる気持ちが感じられた。



＝預かり保育の充実に向けての取組＝

毎年、預かり保育の中で秋にミニ運動会、冬にしおりづくりをふれあい♥つながり企画推進委員会主催で行っていた。今年度、取組を見直すに当たり、幼稚園の保育全般に関する重点目標「思いきり体を動かす心地よさや楽しさを味わい、自ら体を動かそうとする意欲を育てる」を念頭におき、教員も共に検討した。

その中で、ミニ運動会は、園児たちの運動会への意欲や期待感を一層高めるものとして今年度も実施した。今年度は預かり保育には3歳児も多く参加する。加えて全体の参加人数が70人を超える見込みであったため、ミニ運動会の内容は順番を待つ時



間があまり長くないよう全員の内容となるよう、事前に打ち合わせを行い考えた。

### 「パラバルーン遊びから」

9月27日

パラバルーンは大人4人でも十分に広げられないくらい大きい円形の布である。園児たちみんなでバルーンを持ち、上下にゆすって膨らませたりすぼめたりして遊んでいたが、ミニ運動会でたくさんの人手があるこの機会に、園児たちがすっぽりとパラバルーンの中に入って遊びたいと思い、ミニ運動会に取り上げた。

企画推進委員や教員がパラバルーンを持ちあげ園児たちが中に入って座った。預かり保育に参加した70人ほどが全員パラバルーンの中に入ろうと身を寄せ合って座っている。パラバルーンを上へ引き上げるとパラバルーンが大きく膨らみ歓声が上がった。音楽に合わせて、パラバルーンを上げ下げするたびに園児たちから笑い声や歓声が聞こえる。大人がパラバルーンを持つため、パラバルーンがとても高く膨らむ。1人2人と立ち上がり飛び跳ねる。パラバルーンに手が届きそうで届かない。何度でも飛び跳ねて遊んだ。

その後、3歳児と3歳児の担任がパラバルーンの中に入り、企画推進委員と5歳児がパラバルーンを持った。立ち上がってジャンプし、パラバルーンに手が届くと嬉しく何度も飛び跳ねている。座って上を眺めている園児もいる。教員も一緒にその眺めを楽しんだ。青いパラバルーンに包まれ別世界のような感覚があった。

はじめは参観されていたみつばの森の理事の方々も企画推進委員と一緒にパラバルーンを持ってくださった。宿泊保育で馴染みとなった5歳児は「〇〇さ～ん!」「△△のおっちゃん」と名前を呼び、一緒に笑い合う姿が見られた。

#### 〈考察〉

保育中にもパラバルーンでは遊んでいたが、大人がパラバルーンを持つと、バルーンがとても高く大きく膨らみ、波打つ。大きく広がった青い世界に包まれるようだった。その様子に園児たちは大喜びでまた違った楽しさを感じることができた。

出会う企画推進委員の中に見覚えのある理事がおられ、園児たちはとても喜んでいました。名前を知り、呼び合う間柄になりつつあることを感じた。理事の感想からは、地域でも出会うと名前呼び合い、保護者ともつないでいる様子があり、幼稚園での取組が更に保護者と地域をつなぐものとなっていくことが分かった。

教員も計画段階より意識し、園内研究の内容を生かした取組にすることができた。園内研究の内容を企画推進委員会の方々やPTAや学校運営協議会理事に実際に園児の姿を見ながら知っていただく機会となった。





ウ 伝統文化にふれよう 伝統文化企画推進委員会  
＝もちつき＝

みつばの森理事・伝統文化企画推進委員、新町小学校人権福祉企画推進委員、小川・中立少年補導委員会、PTA、佛教大学の学生さん等、総勢50名ほどの大人の方々のご支援で、賑やかにもちつきを行った。

たくさんの大人に囲まれて、日本の伝統的な行事の雰囲気十分に味わう機会となった。初めてもちつきを経験する場となった若い保護者もあり、文化を引き継ぐ意味合いも生まれていた。

「顔、あつなってくる」 12月7日 5歳児

もち米を蒸すために、毎年朝早くから、園庭にかまどを設置してくださっている。

毎年、「12月第一週の水曜日はみつば幼稚園のもちつき」ということが地域の方に浸透しており、今年度も用具をトラックに積んで来てくださった。

今年は、園児たちがかまどの様子をじっくりと見る時間を取った。園児たちは「あつたかいなあ」「でもだんだん顔熱くなってくる」「蒸気機関車の煙みたいや」等話して見ている。地域の方が、「なんか聞きたいことあるか？」と声をかけてくださると、「お米はそこに入ってんの？」「なんで熱くしたら（もち米は）やわらかくなるん？」「煙突は何のためについてるの？」「熱くないの？」「下（のお鍋）何が入ってるの？」等尋ねていた。また、薪を割る様子も見せてもらい、「かっこいいな」と嬉しそうに言う姿もあった。

〈考察〉

毎年「自分たちはかまどの役割」と、かまど係に専念してくださっている地域の方々の方々の姿がある。ガスの火でもち米を蒸すことが主流となるなか、園児たちには、昔ながらのかまどを見て、実際の「火」を感じてほしい、この大変な作業を担ってくださっている方々のことを知ってほしいという思いで、今年度は、かまどの様子を見る時間を計画に盛り込んだ。5歳児は特に興味深く見ている様子が見られ、宿泊保育などで顔見知りの方もあり、質問も気軽にしているように思われた。

どんな質問も丁寧に答えていただけるので、もちつきの一連の作業に対する理解やものごとへのくみ等に興味が深まったようにも思われた。

実際に「ありがとうございます」とお礼も言ったが、それ以上に、教員が見せる感謝の気持ちがかもった態度を見たり、作業の大変さを知ったりしたことが、園児たちの心に残ったのではないかと思われた。



「ぺったん、ぺったんって応援する」 12月7日 4歳児

園児たちがもちをつく前に、大人がつき手となり、それを応援しようと周りの大人が「よいしょ！よいしょ！」と言い始めるが、なかなか声が上がらない4歳児。

保育室で「なんて言って応援しよう？」と相談していた掛け声と違って戸惑っていたことが教員の話でわかる。そこで、みんなが考えた「ぺったん！ぺったん！」という掛け声を、周りにいる大人に伝え、一緒に掛け声を言ってもらおうと、とても意気揚々と大きな声で「ぺったん！ぺったん！がんばれ〜！」と応援し始めた。

〈考察〉

少し緊張気味にもちつきの場にやってきた4歳児。しかし、保育室で待っている間、教員といろいろな話をして、もちつきに期待をもっていたことが伺える。掛け声も決めて出てきたのに、違う掛け声がかかり、期待が高かったからこそその戸惑いだったと思われる。しかし、園児たちの考えた掛け声で、その場のみんなが大きな声でつき手を見て応援する、そんな一体感を味わうことができた。

オーソドックスな掛け声ではなく、また威勢がよいとも言えない掛け声だが、園児たちの思いを尊重し、周りの大人みんなで同じ声をかけていただいたことで、園児たちが一体感を得る喜びを感じることができ、充実した経験になったと思われる。



## ②学校運営協議会の取組の「見える化」と保護者の意識の向上

- ・日曜参観での紹介  
200名を超える出席がある日曜参観を機会に、学校運営協議会理事にも参加してもらい、学校運営協議会の取組について紹介する。
- ・「みつばの森だより」の発行（9月・3月）  
夕涼み会の取組等について、保護者や地域に対し発行する。（9月）

### みつばの森だより

平成28年9月

今年度4月からの、みつばの森の活動を紹介します！

＜第1回 みつば幼稚園学校運営協議会理事会開催 5月31日＞

**理事**

- 結本大好造ー結本メディア企画推進委員会
- 地域とともに育ち合うーれあい♥つなぎ企画推進委員会
- 伝統文化にふれようー伝統文化企画推進委員会

**今年度の理事**

会長 西田厚子さん  
副会長 種智香さん  
学識経験者 結本肇治さん（集英社大学教授）  
島田浩夫さん（元新田小学校校長・橋大学指導員）  
伊藤安貞子さん（みつば幼稚園園長）  
保護者代表 多摩千恵さん  
地域代表 近藤剛子さん 北井晶子さん 難波三友紀さん  
岡本早紀子さん 岡田 真さん  
幼稚園代表 奈良美保子教頭

**＝内容＝**

- 子どもたちの様子について
- 今年度の組織について
- 今年度の計画について
- 夕涼み会と密着保育について
- 学校運営協議会の在り方について

夕涼み会  
楽しいものに  
したいね

今年も  
子どもたちは  
元気ですね！

今のみつば幼稚園で大切にしたいとは何か？

＜夕涼み会 7月22日＞

みつばの森主催の夕涼み会。五年度は創設工事で中止になった分、今年は新たな気持ちで取り組みました！PTAの方の遊びのコーナーも、大変楽しく盛り上げていただきました。たくさんのお楽しみ、ありがとうございました。

**\*第一部 遊びのコーナー**

結本肇治新田小学校学校運営協議会人権福祉企画推進委員会のみなさんとみつばの森ふれあい♥つなぎ企画推進委員会が協力して担当しました。めんこ、おじゃま、けん玉、ひもコマ、百人一首等々あって、大盛況でした。理事の結本先生が連れてきていただいた橋科大学の学生さんもお大活躍でした！ありがとうございます！

地域の乃に暮付けてもらった浴衣、かわいかったですね

**\*第二部 みんなで集いました！**

結本メディア企画推進委員会のみなさんが、事前に何度も打ち合わせをしてくださっていた読み聞かせを、大きなスクリーンに絵本の内容を映して子どもたちに初披露。大勢の人たちの前で、リハーサル 通り無事終わりました。子どもたちもよく見て、聞いてくれてよかったです！

そしてそして、その後は、5歳児の密着保育でした。学校運営協議会の乃乃には、夜の地域遊覧や夜の幼稚園探検でも、大変お世話になりました。夜の幼稚園探検では、道員の実技で子どもたちの“わくわく”感を高潮にさせていただきました。

＜おしらせ＞

9月には、預かり保育でのミニうどんかい、2回理事会、10月には運動会参加、11月には新田小学校との連携授業のポップコーンパーティーと一緒に取り組んでいきます。また、みつば幼稚園は、深草幼稚園と一緒に文部科学省の幼児期の教育内容等深化・充実調査研究一幼稚園等を核とした地域との連携充実に関する調査研究に協力して参加しますので、学校運営協議会が地域との連携を充実していけるように見直し取り組んでいきたいと思っています。

- ・学校評価から見た保護者の意識について  
設問内容・・・「みつばの森（みつば幼稚園・学校運営協議会）みつば会（みつば幼稚園の教育を支援する会）の活動の内容を知っており、その活動は幼稚園の経営（活動）を豊かにしている。」

集計結果

平成26年度後期結果

Category	Percentage
C	21%
D	4%
A	26%
B	49%

平成27年度後期結果

Category	Percentage
C	26%
D	2%
A	25%
B	47%

平成28年度前期結果

Category	Percentage
B	16%
A	84%

A・・・あてはまる      B・・・どちらかといえばあてはまる  
C・・・どちらかといえばあてはまらない      D・・・あてはまらない

- 22 -

学校運営協議会のみなさんや、そこからつながる地域とのかかわりは、計画的にしっかりと位置付けられ行われているにも関わらず、平成26年度、平成27年度結果を見ても、保護者の認識は薄いことがわかる。しかし、平成28年度、今まで行ってきていただいた取組を、積極的に発信したことで、保護者の意識が高まっている結果となった。

保護者の自由記述でも

みつばの森の活動は少しずつわかるようになってはいましたが、宿泊保育で子供たちと宿泊してくださったことで心強く感じ、初めて心から活動を有難く思いました。

みつばの森の皆さんによくしてもらっていて感謝です。

みつばの森の方々のおかげで、いろいろな体験をさせてもらえ、サポートをありがたく思う。地域の行事にはなるべく参加しています。地域の皆様との交流で、小学校や中学校の様子を知る機会にもなっています。

みつばの森さんには、いつも見守っていただいているなど強く感じています。

登園路にあるおうちの方とも朝の挨拶ができるようになりうれしいです。子供だけでなく、親の私も安心感が増しました。感謝しています。

などの意見が見られるようになった。



宿泊保育でグループごとに買い物をした際にも、園児の引率をして御協力をいただきました。



### ③教職員の参画

- ・みつばの森主催の夕涼み会に参加（7月22日）  
参加者全員の前で、歌や手遊び、踊りのコーナーを担当する。



先生の個性が地域のみなさん  
によく伝わったなあ  
(みつばの森理事の感想より)

学校運営協議会や地域の方々が打合  
せを何度もしていただいている、子  
供たちのために力を合わせていただ  
いていることをしみじみ感じます。  
(教職員の感想より)

- ・小川夏祭り、中立夏祭り、小川ふれあい広場などに参加し、地域と学校運営協議会、地域と幼稚園のつながりを強く認識した。
- ・ふれあい♥つながり企画推進委員会の取組である、預かり保育におけるミニ運動会の企画に参加し、園内研究テーマに即した内容になるように取り組んだ。そのことで、自分たちが進めている研究を実際に園児の姿を見てもらいながら、保護者やみつばの森の方々の理解を深めてもらう機会になるように努めることができた。

(P 18 預かり保育の充実に向けての取組参照)



#### ④上京中学校区 幼小中一貫教育の取組

上京中学校区に位置する、みつば幼稚園、京極幼稚園、新町小学校、西陣中央小学校、京極小学校、上京中学校の6校園が「確かな学力、豊かな心、健やかな体、情報化や国際化の変化に対応できる上京っ子の育成」を目標に掲げ、幼児、児童、生徒の健全なはぐくみを保障するための連携を行っている。

めざす子供像として、

か  
からだをきたえ、元気な子（早寝、早起き、朝ごはん）

み  
みんな仲良く、こころ豊かな子（あいさつのできる子）

地  
地域ぎょうじに参加する子

よ  
よく学ぶ子

し  
しょうらいの夢をもてる子

取組内容として

- ・幼小中学校間の段差を緩やかにする取組を推進する。
- ・幼小中学校それぞれの立場で、子供につけたい力や学びの連続性について相互理解を深め、学力向上を図る。
- ・中1ギャップ、小1プロブレムの未然防止。
- ・生きる力の育成と自己を生かす進路の展望・実現を共通の願いとして取り組んでいる。

＝平成28年度年間計画＝

月	日	会議・行事・取組等
4	26	第1回6校園幼小中連携連絡会議
7	6	第1回6校園幼小中連携小委員会
7	8	新町小学校1年生と年長児交流「なかよくなるうかい」
8	5	6校園合同研修会
8	31	上京中学校体育祭事前打ち合わせ（代表の生徒が来園）
9	7	第2回6校園幼小中連携小委員会
9	21	新町小学校1年生と年長児交流 「からだをうごかしてあそぼうかい」
9	26	新町小学校1年生体育見学（年長児）
10	13	上京中学校体育祭参加（全園児）
10	19	保育の公開（全園児）
10	19	第3回6校園幼小中連携小委員会
10	22	ふれあいコンサート
11	18	小中交流会（授業体験）

	1 8	新町小学校 1 年生と年長児交流 「ポップコーンパーティー」
1 2	5 1 2	上京中学校 3 年生家庭科の授業 幼稚園にて全学年が 4 回に分けて交流
1 2	9	授業参観（西陣中央小学校）
1	2 5	第 4 回 6 校園幼小中連携小委員会
2	3	給食交流（年長児）新町小学校 1 年生と交流
2	9	小学校探訪（年長児）西陣中央小学校等を見学

\* 交流等の前後に、事前・事後意見交流を行う。

#### ア 教員の学び合い

毎年恒例の夏の合同研修では、上京中学校区の子供たちとして、同じ教育観のもと、お互いに協調し継続して指導することにより、教育効果を高め連続的な発達を促進することを目的に、教員が一堂に集い学んでいる。

分科会として

- ・ 道徳教育…幼小中の現状と流れなど
- ・ 人権教育…幼小中の現状と流れなど
- ・ 生徒指導…規範意識の育成・それぞれの校区内での決まり・約束事
- ・ キャリア教育…めざす子供像、新しい教育制度、問題解決的な学習、学習への意欲、まなび続ける力の育成について
- ・ 総合育成支援教育…通級指導、LD等支援の必要な子供・育成学級について
- ・ 学力向上…学力向上の取組等

があり、幼稚園からも、園児の実態を伝え、各学校の様子を聞く貴重な機会となっている。

#### イ 連携における園児の育ち

- ・ 新町小学校 1 年生と年長児のかかわり

年間を通して、交流・連携を行っている。

1 学期に 1 年生と年長児がグループをつくり、年間を通して活動する。幼稚園では、グループごとの写真を掲示し、交流のない時も意識できるように環境を整えている。

平成 28 年度は、幼稚園が「思い切り体を動かす楽しさを味わうための教員の援助や環境構成を考える」という園内研究テーマで取り組んでいるため、それを意識した内容も加えた。

「大丈夫？」 9月21日 5歳児と1年生

新町小学校の1年生が幼稚園に来園し、5歳児と一緒に体を動かして遊ぶ交流を行った。挨拶のあと、7月に決めた1年生との合同グループで集まりジャンケン遊びをした。

ユウコは最初1年生と一緒にジャンケンを楽しんでいた。しかし、2回ほどジャンケンをしたあたりからうずくまって泣き始めた。教員がどうしたのか尋ねるが、涙をぬぐいながら黙っている。同じグループの1年生のマコトが教員の動きに気付き、「どうしたの？」と聞いてきた。教員はユウコがなぜ泣いているのか、今尋ねている所だと答えた。するとマコトはユウコに「大丈夫？」と声をかけた。しかし、ユウコは黙ったまま泣いている。マコトは「ジャンケンで負けたからか？」など、いろいろ尋ねるが、ユウコはどの声掛けにも首を横に振っている。他の1年生もユウコとマコトのかかわりに気付き集まってきたので、教員は1年生とユウコのかかわりを見守った。その間に、ジャンケンの遊びが終わったが、マコトらはユウコのそばと一緒にしゃがみ、声をかけ続けている。

しばらくすると、マコトらと一緒にユウコが立ち上がった。ユウコはもう泣き止んでいた。マコトは教員に「なんで、泣いてたか分かった。“お母さん” やって。」と、にこやかに伝えに来た。教員はマコトに「そうやったんや。ありがとう。」と返事をした。(ユウコは「お母さんに会いたくなった。」と言いたかったようだ。)

〈考察〉

1度目はジャンケン遊びをしていたユウコだが、1年生との交流中、いつもより緊張する場面であったためか、涙があふれたようだった。ユウコは以前から泣くと理由を話せなくなることがあったが、この時は1年生らの心配そうに尋ねる姿勢や気持ちが伝わり、ユウコは返事をしたのではないだろうか。(本当に母親に会いたくなったからではなく、その時のマコトたちの気持ちに応えるために「おかあさん」と言ったのではないかとも思われる。)

1年生に親身にやさしくしてもらった経験が、更に小学生との関係を深くしていったと思われ、今後の交流によって、小学生や小学校への思いがどのように変化していくかを見ていきたい。



**「応援してもらったら力が出る！」 9月26日 5歳児**

園児たちが今楽しんでいる、かけっこやリレー等をする「「たいいく」っていう学校の勉強の時間がある」ということを伝え、新町小学校の1年生の体育の授業を見に行くことにした。

小学校では運動会のプログラムの「たま入れとダンス」を練習しているところだった。たま入れでは、園児たちは、大きな声を出して、それぞれの色のチームを応援していた。

授業後、1年生に「(幼稚園のみんなに) 応援してもらったから力が出た」と言ってもらい、嬉しそうに帰ってきた。

その後、幼稚園での取組で「応援したら力が出る」ということを言う園児が増え、リレー等、チーム対抗の遊びでは、“応援”ということに力が入る姿が見られた。

**〈考察〉**

交流したばかりの1年生が身近であったことや、自分たちも経験のあるダンスやたま入れという内容だったので、「学校の勉強」に親しみを感じたのではないかと思われる。

また、自分たちの応援が力になったと1年生に認めてもらったことがとても心に残り、幼稚園での遊びでも、そのことを大切に取組もうとする姿が見られ、とても1年生の言葉に刺激を受けていることが分かった。実際に見たり、意見を聞いたりしていくことが大切であると感じた。



**・中学生とのかかわり**

**「バトンが違う」 10月13日 5歳児**

上京中学校の体育祭では、全園児が中学3年生と手をつなぎ行進し、園児たちが親しんでいる踊りや体操をすることが恒例となっており、今年も参加した。

出番の前にクラブ対抗リレーが行われ、5歳児はとても興味をもって見ていた。「バトンが棒や」と自分たちのリングバトンと違うことにとても関心をもち、「オリンピックと一緒に」とあこがれる様子が見られた。

そこで後日、ソフトバトン(棒状)を用意し、保育室に置いておくと園児たちは飛びつき、またリレーは盛り上がりを見せた。しかし、棒状のバトンでは落とすことが増え、「どうして渡したらよいか」と仲間で相談し始める姿が見られた。

〈考察〉

中学生を憧れの対象として見ていた。その中学生と自分たちとバトンが違うところを見つけ、それを用意したことで、更にリレーへの興味関心を深めていった。

実際には、棒状のバトンはよく落とし、機能的ではないようだったが、園児たちの「オリンピック選手と一緒に、中学校のお兄さん、お姉さんと一緒に」という気持ちは、活動を更に活発にし、どうしたらもっとうまくなるかと考える機会も生まれることになった。

体育祭への参加は、中学生のカッコいい姿、やさしい姿に実際に触れることができ、また、見学した保護者にとっては、地域で育って行く道筋を感じられる貴重な機会となった。

・幼稚園の保育を公開する 10月19日 全園児

幼稚園の研究部会（6園が参加）での公開保育に、上京中学校区の学校や小学校体育研究会に案内を出し、他校種の先生方にすべてのクラスの保育を公開し、意見を交換した。

「思い切り体を動かす楽しさを味わうための、教師の援助や環境構成を考える」の園内研究テーマに基づき、

5歳児「思い切り体を動かして遊ぶ楽しさを感じ、友達と共通の目的に向かって遊びをすすめようとする」

4歳児「先生や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ」

3歳児「好きな遊びを見つけ、先生や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ」

をそれぞれねらいにあげ、取り組んだ。

特に5歳児の保育についての事後の話し合いでは、主な取組であったリレーについて話が深まった。

・中学生のリレーを見て棒状のバトンを使いたいということが園児の願いだった。棒状のバトンとリングバトンの両方を用意する等の環境の工夫も考えていく必要がある。

・あるグループでは、バトンを前に出て受け取る、バトンを最後にもらう園児がライン側に詰める等、園児なりに工夫していた。小学校体育での学習につながる工夫の姿だ。他のグループの園児が考えるきっかけとなるように、工夫している姿を全体に課題として投げかけるような援助が大切である。

・5歳児は小学校への接続期として、話を聞く態度も育てていきたい。一人一人に適切な援助をしていくことが求められる。等の話し合いがなされた。





#### (4) 成果と課題

##### ①園児の育ちへの問い直し

###### ア 地域とのつながりと安心感

###### ＝絵本メディア企画推進委員会＝

絵本ボランティアさんが昼の時間に絵本室に必ずいてくださることで、安心の場をみつけた園児たち。それをその場のことだけではなく、教員が意識したことで、個々への内面の理解が深まり、援助の仕方への学びも得られた。

教職員ではない大人にも親しみや安心感をもてる子供に育つことが分かった。ボランティアさんの顔写真を貼っておくと、「〇〇さんは〇曜日に来てくれるしなあ」と、その人とつながるうれしさを感じ始めた。また、好きな〇〇さんに絵本を読んでもらった経験を保護者に伝え、絵本を借り、絵本に更に親しむ動機づけになる姿も見られた。

###### ＝ふれあい♥つながり企画運営委員会＝

今年度初めての試みの園内での宿泊保育、隣接する特別養護老人ホームとのかかわり、預かり保育の充実、上京中学校区の学校との連携への関与等、理事と共に多くの取組をしていただいた。

かかわりの多かった5歳児は特に、理事や委員を名前で呼び、会えることを楽しみにしていた。理事や委員は地域でも活躍されている方が多いため、地域の催しにも、保護者に伝えて「参加したい」と園児が自ら言って参加する姿が見られた。「火の用心の夜の見回りも〇〇さんがいると言って、一緒に行ってきました」等の声も聞かれた。幼稚園で園児が心を動かした体験が、保護者にも伝わり、それが地域に目を向け、地域への関心や参加意識になっていく様子が見られた。

保護者のアンケートでも、以下のような御意見をいただいた。

- ・「子供を通して地域の行事に参加する機会が増え、若い時には軽く考えていた地域のつながりの大切さをとても感じるようになりました。子供たちが地域のみなさんに育てられて、見守られているという安心感をもっと広げていければと思います」
- ・「特に今年度ということだけでなく、地域の方によくしてもらっていると思います。地域に知り合いがたくさんいるということは有難く、心強いことだと思っています」
- ・「近所で会う友達が増えたことを実感しています。幼稚園の友人のみならず、小学生とも挨拶しているのを目にします。いろいろな人に挨拶できるように子供が成長していると感じています」
- ・「自分自身が子供の頃と比べると子供が周囲の大人や年上の子供と関わる時間や機会が減ったと感じていましたが、みつば幼稚園に通い出してからは、幼稚園の取組の甲斐があり、交流が保たれていると実感しています」

- ・「地域の方とのつながりができたことがうれしい。『親の知り合い』ではなく『ボクの知ってるおじさん』になっている」
- ・「育児が、地域の皆様に支えられていることを改めて実感しました。私も今後、何かしらの活動に参加して地域の輪に入っていきたいと考えています」等、保護者の意識が変わることで、更に園児の体験が定着していく様子が伺えた。家庭の地域への参画意識が高まることこそが、園児も自らも地域の一員であるという感覚の芽生えに必須であることが感じられた。

また、特別養護老人ホームへの訪問や門掃き等、自分がしたことを喜んでもらえる体験を積み重ねていくと、更に親しみを感じることで、「もっとこうしたい、こんなこともしてあげたい」という思いが生まれてくることがわかった。自分が役に立っている自己有用感を地域社会の中で感じ、自信をもつようになる姿が見られた。

#### ＝伝統文化企画推進委員会＝

女性が主な構成委員である他委員会と違い、男性の参加の多い「もちつき」等では、多くの大人に囲まれて、威勢のよさ、力強さも感じながら伝統的な行事を体験することができた。3回目の経験となる5歳児では、ものごとのしくみ等にも興味をもつ等、発達段階に応じた取組ができた。

公立幼稚園は人事異動があり、教職員は入れ替わっていくが、「12月第一週の水曜日は、みつば幼稚園のもちつき」ということが地域に浸透しているのは、学校運営協議会の方々がいらっしゃるからこそであり、今後も継続し園児たちの育ちにかかわっていただけるという安心感がある。このような安心感が、みつば幼稚園と地域とのかかわりの象徴的なことだと言えるのではないかと思われる。

「あつて当たり前」だった、学校運営協議会や地域の方々とのかかわりを改めて見返すと、形ではなく、そこには人と人のかかわりが見えてきた。

地域の方々の参画で、いろいろな大人とその営みの中で育つ豊かさを再認識できた。イベント的と思われていた保育中のかかわりも、園児の心にしっかりと残ることで、幼稚園から離れてからの生活にも生かされ、地域で育つ安心感につながっていることが感じられた。

また、保護者の意識の向上についても、取組の発信と園児の変容により、図ることができた。

#### イ 他校種とのつながりにおいて

学校運営協議会が主となって、他校種とのつながりをつくっていただけてきた10年間であり、現在がある。学校運営協議会の方々が小・中学校にもかかわ

ってもらっていることで、より継続的なかわりとなり、園児も保護者も安心感を得ることで、連携もスムーズにいくことが改めて感じられた。

#### ウ 教職員の参画について

学校運営協議会や地域、他校種とのかかわりは、ややもすると、管理職や年長組担任に取組が偏りがちだが、それぞれの取組に園内研究のテーマや指導計画について位置付けることにより、教職員の意識は高まった。この意識の向上が、地域の方々に教職員をより知っていただくことにもつながっている。地域の方々から教職員の取組を認めていただく機会も多くなり、それが教職員の自信につながり、より一層意識や意欲の高まりが見られた。



## ②みつばの森10年を振り返って

ア 設立当初よりみつばの森に参画していただいている方々の10年間の思い

### 「みつば幼稚園学校運営協議会（みつばの森）の歩み」 吉田厚子会長より

みつば幼稚園学校運営協議会が発足したのが、平成18年2月でした。それから10年が経ちました。末娘があと数か月で卒園、これでみつば幼稚園とも離れてしまうのだなと思っていた頃、1本の電話から私の学校運営協議会の会長としての航海が始まりました。みつば幼稚園の園歌の中に「船に乗っていこうよ。ドキドキすること待っている…」とあるようにドキドキしながらの出港でした。今思えば未知なる世界への旅立ちでした。

1年目は何が何だかわからないまま時間だけが過ぎ、学校運営協議会の存在すら理解してもらえませんでした。そこで、皆さまに親しんでもらえるように名称を募集し、「みつばの森」と変更しました。今では、みつば幼稚園学校運営協議会＝みつばの森と定着しています。

みつばの森には、絵本メディア、ふれあい♥つながり、伝統文化の3つの企画推進委員会があります。みつばの森として園児たちに何かできないかと考え幼小連携に取り組みました。それにより少しでも不安を取り除けないかと思いました。その後、中学校とも連携をもち、中学生との交流も行っております。

絵本メディア企画推進委員会では、昼休みの読み聞かせや図書ナビゲーションシステム（絵本管理システム）を導入して蔵書を整理して、絵本室をより有効活用し、また未就園児にも絵本の貸し出しをしています。ふれあい♥つながり企画推進委員会では、幼小連携事業として、新町小学校の1年生との1年間を通して交流をし、農園体験や給食体験をしています。また、預かり保育の充実化にも取り組んでいます。伝統文化企画推進委員会では、夕涼み会やもちつき大会など地域の力をお借りして行っています。このようにみつばの森では、園児たちがどのように楽しんでくれるか、喜んでくれるかを考えさまざまな活動をしています。

また、今年度より、お泊り保育を園舎で行い、みつばの森もお手伝いをしました。園児との密接したふれあいで、得たものは限りなく素晴らしいものでした。また、保護者のみつばの森への認知度があがりました。今では、園児からも保護者からも自ら声をかけていただけるようになりました。とてもうれしいことです。

みつばの森には、たくさんの方々がいてくださいます。理事の皆様・企画推進委員の皆様・保護者の皆様・教職員の皆様。そして、この私たちに絶大な支援をいただいているのが各地域の皆様です。発足当初から掲げておりました目標の「地域の子どもは地域で育てよう」のように、地域の皆さまご協力があって成り立つのではないかと考えております。また、私は「みつばの森は、みつば幼稚園にとってご意見番であり、応援団でありたい」と皆さまにお伝えし

てきました。

地域・保護者の皆さまのご支援をいただき、これからも園児のみんなを楽しませていきたいと思いをします。

「運営協議会活動を振り返って」橋本憲尚理事（佛教大学教育学科准教授）より

私はみつば幼稚園学校運営協議会発足当時から、メンバーとしてお世話になっております。学識経験者なる肩書をいただいていたので参加だったのですが、当初は“運営協議会”とは一体何をするのか、私自身は何をすればよいのか、はっきりイメージをつかめないまま会議に出席していたように思います。園長先生をはじめ幼稚園の先生方、幼稚園PTA・OGのお母さん方にも、私と同様の戸惑いを感じておられたように拝見しました。しかしながら、会を重ねるうちに、運営協議会会長の吉田さんをはじめ、ベテラン（失礼？）お母さん方のご発言から、とにかく何か活動しようという意気込みが感じられるようになり、私の方もそれに少しでも応えようと、小さなことでもお役に立つことが出来ればと考えるようになりました。夏の夕涼み会や冬の餅つき大会に、学生たちがお手伝いをさせて頂く機会を与えて頂き、私自身もその場に臨んで感じるどころ、学ばせていただいたことがたくさんあります。

夕涼み会には園児さん、卒園児の皆さん、保護者の方々など、幼稚園のホールにあふれるほどの人々が集まって来られますが、その動線を考えて受付・浴衣の着付け部屋・授乳部屋・遊びコーナーなどを設定し、幼稚園の先生や小学校の運営協議会をはじめ地域の方々がお世話しておられます。また、餅つき大会には餅米を蒸すかまど・臼と杵が何台も登場し、威勢のよい声がかかり賑やかな雰囲気の中かで子供たちにお餅がふるまわれます。蒸し方には地域のご年配の方々、つき手にはPTAのお父さん・お母さん方と様々な人手が携わっておられます。まさに老若男女を超えた人々のご協力があって園の行事が支えられていることを改めて認識し、私自身その場に参加させていただいていることに喜びを感じています。

ところで、母親の里が京都市内でありながら大阪で生まれ育った私には、“洛中”の街並みは独特の落ち着いた風情、暮らす人々にも所謂“商人”とは違った庶民性を感じます。例えば、夏のお泊り保育で取り組まれた“門掃き”は、本来ボランティア活動といった類のものではなく、京都の寺院門前や市中での伝統的な習慣です。この何気ない習慣が街の景観を保ち、“小奇麗”を好む京都人の美意識を育んできたのではないのでしょうか。また、京都市内では小学校への思い入れや校区内の身内意識が強いように見受けられます。あるとき、地下鉄の車内でご年配のご婦人同士「あんた、学校（がっこ）どこやの？」「ああ、うち〇〇や。」と言葉を交わされていました。“学校”と言ったら小学校のこと。こうしたやりとりは



私のような大阪人の間にはあり得ないものです。園行事にしる、みつばの森の活動にしる、こうした“洛中”の土地柄の後ろ盾があってこそ成り立っているといっても過言ではないと思います。こうした地域のなかで育っていく子供たちの感性には、人と人とのつながりの大切さが自然と刷り込まれていくことでしょう。夕涼み会や餅つき大会のような賑やかでアットホームな雰囲気なかでの“原体験”は、昨今のエンタテインメントが提供する一過性のヴァーチャルな刺激にはない、リアルな時空間に身をおいて自ら関わりをもったという感覚を与えてくれます。私は、みつば幼稚園の運営協議会が子供たちの心に撒いた種が、幼稚園そして地域の末永い繁栄という実りとなることを確信しています。

お二人からのご意見をいただいて（京都市立みつば幼稚園田中順子園長）

みつばの森の10年間を支えていただいているお二人からの思いをいただき、やはり、みつばの森は、みつば幼稚園の心強い応援団でいてくださることを改めて感じ、大変嬉しく思いました。この10年の取組の中で、今ではみつばの森の方々が表向きかかわってらっしゃらないようなことも、学校運営協議会のかかわりがあるからこそ、「あって当たり前」と感じるような安定した幼稚園と地域との関係があるののだと思えました。前述したように教職員には人事異動があります。そんな中であって、みつば幼稚園のように10年間いろいろな変化がありながらも、いつも「幼稚園の応援団」という思いと眼差しでいてくださることで今のみつば幼稚園があると感じました。そして何より、会長、理事として園児たちや幼稚園とのかかわりに喜んで参加して下さっていることが、園児たちや教職員、保護者にも伝わり、関係性が深められ、ますます幼稚園の地域に開かれた取組が充実していくと感じています。

また、大きな視点で幼稚園を見ていただいていることが、今、社会に開くことが求められている幼稚園にとってとても大切になってくるとも思います。今後も密着した地域とのかかわりの橋渡しや大きな視点に立ったご意見をいただくなどのご協力をいただき、その“応援”に応えるべく、幼稚園も更に保育の充実を図っていきたいと思います。



イ 10年の保護者の意識の変容から見える地域とのかかわりの必要性

みつば幼稚園が10年前に、文部科学省研究委託の『自然体験や社会体験活動を通して、幼児が生涯にわたって主体的に生きる力を育む』～『学校評価システム』を活用した地域における公立幼稚園が担う役割についての実践的調査研究～で行った「自然体験・社会体験」についての保護者アンケートを10年経った今の保護者に行い、その体験や意識の変容について調べた。

番号	質問項目	子どもの時の体験				子どもと一緒にした経験		子どもにさせたい経験	
		回答(父)		回答(母)		回答		回答	
		17年度	28年度	17年度	28年度	17年度	28年度	17年度	28年度
1	海や川で遊んだり、泳いだりする	90%	94%	94%	94%	78%	78%	75%	83%
2	海や川で貝や石を拾ったり、ざりがに・おたまじゃくし・魚・かえるなどをとったりする	96%	95%	90%	89%	72%	62%	74%	83%
3	蝶やバッタ・せみ・だんご虫・ありなどの昆虫を見たり、つかまえたりする	96%	92%	86%	89%	85%	80%	74%	78%
4	鳥やせみ・虫などを見たり、なく声を聞いたりする	92%	91%	86%	91%	74%	85%	74%	74%
5	草花や野菜を育てたり、種取りや収穫をしたりする	85%	73%	86%	84%	83%	73%	76%	81%
6	月や雲などを見る	88%	83%	93%	95%	82%	85%	69%	76%
7	雨や風を見たり、感じたりする	88%	75%	88%	90%	88%	82%	64%	71%
8	太陽を昇るところや沈むところを見る	86%	72%	89%	72%	46%	47%	76%	75%
9	自然や緑の多いところに出かけたり、野外料理やキャンプをしたりする	89%	75%	81%	86%	67%	58%	78%	79%
10	木の実や木の葉を集めたり、遊んだりする	79%	70%	88%	91%	81%	73%	74%	72%
11	砂や土で遊ぶ	92%	92%	92%	94%	83%	80%	67%	76%
12	水やシャボン玉で遊ぶ	90%	89%	97%	95%	93%	85%	64%	76%
13	水溜りにはいって遊ぶ	88%	81%	82%	77%	65%	49%	63%	63%
14	木に登る	82%	77%	53%	65%	17%	31%	76%	67%
15	土手やがけをのぼったり、すべったりする	85%	80%	67%	71%	33%	29%	72%	72%
16	大文字山・稲荷山・吉田山・愛宕山などの山に登る	65%	55%	67%	65%	24%	29%	79%	80%
17	大文字を見たりする	64%	61%	68%	56%	68%	58%	68%	77%
18	花火大会や地藏盆、地域の夏祭りなどを見たり参加したりする	88%	84%	97%	84%	94%	81%	65%	78%
19	地域のラジオ体操に参加する	89%	84%	96%	94%	25%	20%	69%	71%
20	地域主催のハイキングに参加する	39%	23%	43%	33%	10%	6%	50%	49%

10年前と比較して

- ・父親自身の自然体験は10年前に比べ減少傾向にあり、母親自身の自然体験はやや増加傾向であった。
- ・自然体験を子供と一緒に体験している傾向はやや低くなっている。しかし、子供に自然体験してほしいという親の願いは、やや増加している。
- ・地域での夏祭りや地藏盆などの行事は参加が減っているものの、期待は高まっている。等の結果が見られた。

どの項目も顕著な差はなかったものの、全体的には保護者の体験の減少傾向が見られた。特にマンションに住む家庭が多くなっており、自治会等に所属していないことから、地域行事への参加がしにくくなっているの

はないかということがわかった。そのような中、幼稚園の活動や広報を通して、地域行事があることを知ったり、興味をもったりすることは意味があると考えます。今後も幼稚園が地域の核となって、子育て家庭や地域の方々をつなげ、地域で安心して子供が育つ環境をつくっていく必要性がより高まっていると思われた。

### ③ 今後の課題

- ・当たり前となっていた取組も、改めて振り返ると子供の育ちに切っても切れないものになっていることが分かった。毎年、意識して振り返ることの大切さを感じた。今後も、学校評価システムを活用し、保護者アンケートや教職員の話し合い、取組からの自己評価を行い、学校運営協議会のみなさんの関係者評価をいただきながら、子供の育ちにつながる幼稚園の取組が外部の方にもしっかりと伝わるものにしていくことが必要と考える。
- ・夕涼み会、夏祭り、預かり保育などの教育課程外と認識していた活動についても、保育指導計画と連動させ、その取組が子供の育ちに必要なものか、どのような育ちがあるのか、しっかり検証しながら、様々な取組が「当たり前」ではなく、子供の育ちを軸に、保護者にとっても地域にとっても、意義のあるものになるための取組について、常に見直ししながら今後も進めていきたい。

#### 地域の方々とのかかわりと指導計画の発信

地域の方々とのかかわりと指導計画について1年間を3期に分け歳児別に表にまとめた(次頁以降)。今後、関係者に発信・説明し、更に幼稚園の教育についてご理解いただくように努めるとともに、来年の教育活動の改善に生かしていきたい。

